

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520235

研究課題名(和文) 近世前期上方出版界の転換期における浮世草子作者の営為に関する研究

研究課題名(英文) The study of activities of Ukiyozoshi writer at a turning point of the publishing world on Kamigata area in the early Edo period .

研究代表者

藤原 英城 (FUJIWARA, Hideki)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：20264749

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近世前期上方出版界の転換期(元禄・宝永・正徳)におけるキーパーソンとしての浮世草子作者月尋堂の多彩な文学活動について考察したものである。月尋堂には従来知られていなかった和学者としての一面があり、歌学書『和歌俗説辨』や有職故実書『官職田舎辨疑』などを出版するが、それは西鶴以降の新しい浮世草子作者像を提示するとともに、当時の出版界において求められる作者のあり方をも示唆することになる。

研究成果の概要(英文)：This study is an investigation of literary activities of Getusjindo, who is an Ukiyozoshi writer and a key person at a turning point(Genroku, Hoei, and Shotoku period) of the publishing world on Kamigata area in the early Edo period. He is not only an Ukiyozoshi writer but also a scholar of Japanese classics, who writes "Waka zokusetuben"(a book on the study of waka poems) and "Kanshyoku inakabengi"(a book on the study of usages or practices of court or military household). These are unknown activities of him, which suggests a new image of a Ukiyozosi writer in post-Saikaku and needs of publishing business.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：日本近世文学 月尋堂 浮世草子 和学 歌学 有職故実 出版文化 書肆

1. 研究開始当初の背景

宝永五・六年の二年間に『鎌倉比事』『子孫大黒柱』『今様廿四孝』『儻偶用心記』の四作品を僅かに残し、表舞台から忽然と姿を消した浮世草子作者月尋堂ではあったが、かつて水谷不倒が

彼れは著作に対して頗る親切で、趣向立・措辞・用語、外題を命ずるにも用意周到。一字苟もせずといふ趣がある。されば彼れの作には緊張した気分が充ち、修辞上稀に見る技巧家であつた。(『新撰列伝体小説史』春陽堂 昭4、『水谷不倒著作集第一巻』中央公論社 昭49に再録)

と評するごとく、戦前においてもその技巧的作風は注目されていた。しかし、総じて西鶴以降の浮世草子作者がそうであったように、戦前の評価は「西鶴一たび起つて其後塵を追ふ者」、「西鶴の町人物・武家物を学んで及ばざるもの」(藤井乙男『評釈江戸文学叢書第二巻 浮世草子名作集』講談社 昭12、昭45再版)に代表される類のものであった。

戦後の浮世草子研究においては、野間光辰は「西鶴模倣の痕は蔽うべくもなかった」当時において、「その中やや見るに足るべきもの」として『子孫大黒柱』『今様廿四孝』を挙げる(『日本古典文学大系91 浮世草子集』岩波書店 昭41)の解説)。長谷川強は月尋堂の技巧派的な作風に対し、「奇を弄しすぎて不自然・趣向倒れに陥る欠点」を指摘するが、「その異才をもって趣向重視の宝永期の浮世草子界の刺激となった作者である」とも評価する(『浮世草子の研究』桜楓社 昭44、平3再版)。西鶴以降の浮世草子を趣向重視という観点から再評価したものといえよう。

研究代表者藤原もその編集に参加した『八文字屋本全集』(汲古書院 平4~12)、『西沢一風全集』(同 平14~17)の刊行が始まった1990~2000年代から、八文字屋本(江島其磧)を中心とする西鶴以降の浮世草子を再

評価する機運が高まった。

しかし、西鶴以降の浮世草子研究は、西沢一風や江島其磧などの従来からよく知られる作家を中心にようやくその端緒に付いたばかりと言ってよく、月尋堂の基礎的な研究はまだ十分にはなされていない。その大きな要因としては、月尋堂の人物像が確定せず、作家研究が進まなかったことが挙げられよう。

2. 研究の目的

西鶴没後の元禄六年以降、八文字屋が全盛を迎える享保期までのおよそ三〇年間は、従来の文学史において、停滞した西鶴垂流の群小作家たちの時代として総じて評価が低い。しかし、その間上方の浮世草子・出版界では江島其磧・八文字屋と西沢一風・菊屋を中心とする反八文字屋勢力が競争し、またその後は其磧と八文字屋が分裂するなど、変化の著しい時期でもあった。浮世草子作者月尋堂はそうした時期に登場するが、その反八文字屋作家から八文字屋の匿名作家への転向は、こうした転換期の出版界の知られざる重要な要因であった。当該研究は上方浮世草子界の転換期のキーパーソンとしての月尋堂の多彩な活動の様相を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

これまで藤原が行ってきた月尋堂に関する研究とその成果を統合しつつ、さらに新たな知見を加え、元禄期以降の浮世草子界、ポスト西鶴の出版界の動向・戦略、また当時の浮世草子作者の知識人としてのあり方などについて、文献資料の調査・研究を通して総合的に明らかにするものである。具体的には、本研究期間において月尋堂の和学者としての活動を解明することに重点を置き、(1)『官職田舎辨疑』や『和歌俗説辨』などの月尋堂の手になる和学書の伝本・書誌調査、(2)関連資料の収集、(3)それらを交え

た考察・研究と翻刻の提供を行う。

4. 研究成果

本研究期間において、その研究成果として次の2点の研究論文を公刊した。

(ア) 月尋堂の歌学書『和歌俗説辨』 - 翻刻と解題 - (『京都府立大学学術報告・人文』64号 2012年12月)

(イ) 月尋堂の有職故実書『官職田舎辨疑』 - 翻刻と解題 - (『京都府立大学学術報告・人文』65号 2013年12月)

(ア)において、正徳二年正月に刊行された作者無署名の歌学書『和歌俗説辨』が月尋堂の著作であることを考証し、彼に歌学者としての一面があったことを明らかにするとともに、その具体的な様相を提示・分析した。

月尋堂の歌学意識には、下河辺長流や野田忠肅といった黎明期の古学者圏内の一員としての伝授批判が見られる一方で、竹内惟庸や三条西家に連なる堂上歌学者としての一面も兼ね備える。従来歌学史研究において、地下による堂上歌学打倒のスローガンと化していた観のある「伝授批判」ではあるが、月尋堂の場合にはその批判対象が北村季吟を主とする地下歌学であり、形式においては伝授批判という新派的な様相を帯びながらも、内容においては堂上歌学尊重という旧派的な意識が窺え、まさに歌学史における過渡期的なあり方を示す。『和歌俗説辨』はそうした月尋堂の意識が明確に著されており、浮世草子作者の知られざる文学活動ということのみならず、歌学史上においても重要な意義をもつ。

(イ)において、宝永八年三月に刊行された有職故実書『官職田舎辨疑』が月尋堂の著作であるとともに、その署名が「北京散人宵雨軒」とあることから、従来疑問がもたれていた浮世草子作者月尋堂(北京散人月尋堂)

と伊丹派の俳人藤岡月尋(宵雨軒月尋)が同一人物であることを確定した。

『官職田舎辨疑』には出典が示されることはほとんどないが、『官職備考』を主な典拠としながらも、『職原鈔』『故事根源』といった基本図書の他に『職原抄支流』『職原鈔参考』『公事根源抄集釈』などの注釈書や『塏囊鈔』『名目鈔』『公卿補任』『尊卑分脈』『歴代皇紀』『官職難儀』『北条九代記』『平治物語』などを適宜参考・引用していることが明らかとなった。

当該書は享保四年に再印されるが、享保十一年頃に求板され、月尋堂の序を削除して新たに慎斎序・環翠子後序を付して『官位俗訓』と改題・刊行される。さらに文政・天保頃には慎斎序を削除し、環翠子後序を貝原益軒署名の序に改竄して、『官位訓』と改題・刊行される。『官位訓』は弘化・嘉永頃にも求板されて刊行されるが、『官職田舎辨疑』は改題されながらも内容においては改竄されることはなかった。益軒の書物として売り出されたことから窺えるように、当該書が啓蒙書としての確かな内容とニーズを幕末まで獲得していたことは記憶されてよからう。

以上の研究成果により、月尋堂には知られざる歌学者としての一面の他に、有職故実家としての一面もあったことが具体的に確認でき、浮世草子作者、俳諧作者に加え、歌学・有職故実に精通する和学者としての姿が新たに加わることになる。

西鶴没後、元禄期から宝永・正徳へと移り変わる転換期の浮世草子作者の文学的環境(知識・人脈・出版界)を考察する上で、これらの研究成果は新知見であり、学界に寄与するものとならう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

研究者番号：

藤原英城、月尋堂の有職故実書『官職田舎
辨疑』 - 翻刻と解題 - 、『京都府立大学学術
報告・人文』、65号、査読なし、2013年、pp .
1 - 42

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009676596>

藤原英城、月尋堂の歌学書『和歌俗説辨』
- 翻刻と解題 - 、『京都府立大学学術報告・
人文』、64号、査読なし、2012年、pp . 1 -
28

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009555869>

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤原 英城 (FUJIWARA Hideki)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：20264749

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()